

平成28年 7月 6日

運輸審議会

会長 鷹箸 有宇壽 殿

公 述 申 込 書

運輸審議会一般規則第35条の規定により、下記のとおり公述申込みを致します。

記

1 公述しようとする事案

事案番号 平28第4001号

事案の種類 軌道運送高度化実施計画の認定

事案の申請者 宇都宮市、芳賀町及び宇都宮ライトレール株式会社

2 公述しようとする者 ※法人・団体等の記入方法は注意事項②参照

(ふりがな) たべい ゆうや

氏 名 田部井 優也

(郵便番号) 〒 [REDACTED]

住 所 [REDACTED]

職 名 学生

年 令 23歳

3 事案に対する賛否

賛成

4 利害関係を説明する事項 ※利害関係人のみ記入 (注意事項③参照)

5 自宅、勤務先等の連絡先電話番号

[REDACTED]



平成28年 7月 6日

運輸審議会

会長 鷹箸 有宇壽 殿

公 述 書

運輸審議会一般規則第35条の規定により、下記のとおり公述を致します。

記

1. 公述しようとする者

(ふりがな) たべい ゆうや

氏 名 田部井 優也

(郵便番号) 〒 [REDACTED]

住 所 [REDACTED]

職 業 学生

年 令 23歳

2. 公述しようとする内容

宇都宮市、芳賀町及び宇都宮ライトレール株式会社からの軌道運送高度化実施計画の認定申請事案に関して賛成し、公述させていただきます。

私は宇都宮大学で都市計画を学んでおります。これまでに様々なデータを触り、実際に宇都宮で暮らしてみても、宇都宮駅東側には、この計画を一日も早く実現させることが必要であると感じております。

その理由は二つです。

一つ目に、宇都宮市には東西に鉄道系公共交通が無く、バスが主たる公共交通となっていますが、運行会社が複数あり、運行間隔が疎らな上定時性が低く非常に不便であるということです。

現状では、バスの定時性が確保されていないため、中心部や駅に行く場合には、どうしても予定しているよりも何本か前のバスに乗らないと予定通りの行動ができません。またバスが複数連なってくる時もあれば、30分も間隔が開く時間帯があったりと、使いたい時

にバスが来ない現状が有ります。現状では、時間通りに目的地に行こうとすると、移動時間に少しゆとりを持たせるなどの工夫や、移動後の行動を変更するしかありません。そもそも、バスの定時性が保たれないのは、多くの自動車と同じ目的地、同じ時間帯で利用されているからです。これら自動車の目的を見ると大部分が通勤であり帰宅です。通勤や帰宅であるからこそ、目的地、時間は容易に変えることができません。この問題を根本的に解決するには、自動車から次世代型路面電車へと転換させて、自動車交通の量を減らすしかありません。しかしながら、あくまでも次世代路面電車は基幹となる交通手段であり、その基幹交通を支えるためには自動車交通も重要になります。私がお話したいのは、自動車から公共交通へ転換を促進することにより、大きく減らせるところは減らして、自動車の交通量をトータルで減らせばよいということです。自動車交通量がトータルで減ることによりバスの定時性も向上します。そして、現在公共交通空白地帯となっている地域への導入など、バス路線の再編をすると同時に、ICカードなどを導入することで使いやすい公共交通システムを実現でき、だれもが移動をしやすい都市をつくることができます。

二つ目に、交通安全を実現するためにはこの計画が非常に有益であるということです。人口減少社会によって車は減っていくでしょう。しかしながら、公共交通が乏しいままの地方都市では、高齢になってからも車を運転せざるをえません。そのため人口減少にともない自動車自体の数が減ったとしても、高齢の方が運転する機会は増え、高齢者による交通事故の発生リスクが増加します。近年高齢者ドライバーによる交通事故が多発しておりますが、今後はその割合が更に増えるのです。その結果、安全・安心な社会を実現することはできません。また高齢者や身障者、子どもたちが移動しやすい環境にすることで、子育てもしやすい移動環境を作ることができ、高齢者や子育て世代、子どもが安全に安心して暮らせる都市をつくることができます。加えて、公共交通を中心としたまちづくりを行う事で、電停を中心に利便性の高い魅力的なまちづくりを進めることができます。その結果、日常の生活は公共交通や徒歩や自転車を利用した低炭素でコンパクトな社会を実現できます。

そして、東側だけでなく将来的に西側にも敷設されることで我々大学生は市の中心部に安心して出かけることができます。現状では、中心部に行こうとすると自転車やバスで時間をかけていくしかありません。そのため、我々学生は中心部に行くことが非常に少ない状況にあります。中心市街地はまちの顔であり、そこに若者を含む多くの世代が集わない限りまちは活性化しません。

このようにメリットが多く安全で便利な暮らしができる計画に反対をする人々がいることが私には理解できません。反対の皆様の中には孫の代に借金を残すとか、更に危険になるという意見がありますが、いつ走ってくるかわからない自動車、そして誰が運転しているかわからない自動車の方がよっぽど交通事故のリスクは高く、それによって、子

供たちの尊い命が交通事故に巻き込まれることの方がよっぽど将来のためにはなりません。そんな社会を将来に残すことの方がよっぽど恥かしいことだと思います。そして、少なくとも多くのデータをもとに客観的に宇都宮を見てきて思うことは、将来のために有益な次世代路面電車システムを一日も早く整備し、そして一日でも早く西側へ抜けて、真の東西基幹交通を持った宇都宮となること期待したいと思います。